

進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	経済学部
大項目	5 学生の受け入れ
中項目	
小項目	5.0.1 学生の受け入れ方針を明示しているか。
要素	求める学生像の明示 当該課程に入学するにあたり、修得しておくべき知識等の内容・水準の明示 障がいのある学生の受け入れ方針
小項目	5.0.2 学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。
要素	学生募集方法、入学者選抜方法の適切性 入学者選抜において透明性を確保するための措置の適切性
小項目	5.0.3 適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。
要素	収容定員に対する在籍学生数比率の適切性 定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関する対応
小項目	5.0.4 学生募集および入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか。
要素	

II. 自己点検・評価(2010.5.1～2011.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA～Dの4段階とし自ら評価した。A～D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 多様な入試形態の学生の質的向上を促進する(入試形態別、指定・提携・継続・協定校別の入学後の追跡調査の精緻化、調査分析結果の受け入れ人員枠設定への反映等による、意欲的な学生の受け入れ促進)。	→指定・提携・継続・協定校に対する高校別追跡調査の実施(現行の入試形態別から、高校別に学業成績や他の活動等での活躍状況を追跡調査し、その後の学生の受け入れなどへ反映)。		A			
2. プレゼンテーション審査を重視したAO入試制度を導入する(2010年度入試より導入)。	→AO入試のスポーツ実績以外の学生の割合(スポーツ以外のカテゴリーの学生の受け入れ50%以上の維持)。		A			
3. 学生によるジョイント・ディグリー制度の利用を促進する。	→ジョイント・ディグリー制度を活用する学生数(5年以内に年間10名以上)。		B			
			☆			
2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

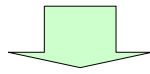
(その他の指標データ)
 入試形態別志願者数、受験者数、合格者数、入学者数と割合【大学基礎データ】
 地域別志願者数、受験者数、合格者数、入学者数と割合
 科目等履修者の入学者数
 聴講生の入学者数

☆ 追加データがあれば追加してください。

◎**効果が上がっている事項** ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(1)》**効果が上がっている事項** 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目 5.0.1	
小項目 5.0.2	
☆ 小項目 5.0.3	
小項目 5.0.4	AO入試、外国人留学生試験、スポーツ選抜については、入学後、6月に懇談会を実施し、学部にて期待する入学者像を伝えるほか、学業や生活について確認を行い入学試験のあり方について検証している。
その他	



【次年度に向けた方策(1)】**伸長させるための方策**

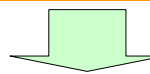
注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目 5.0.1	
小項目 5.0.2	ジョイント・ディグリー制度の活用促進に向けた告知機会・内容（どのように役立つか、卒業生がどのような分野で活躍しているか等）の充実をはかるための手段のひとつとして、ホームページ上に「目指せ関学経済人」を掲載し、その中でジョイント・ディグリー制度についても取り上げた。より多くの受験生に見てもらうことが今後の課題である。
☆ 小項目 5.0.3	
小項目 5.0.4	
その他	

◎**改善すべき事項** ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(2)》**改善すべき事項** 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目 5.0.1	
小項目 5.0.2	
☆ 小項目 5.0.3	
小項目 5.0.4	
その他	



《次年度に向けた方策(2)》**改善方策**

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目 5.0.1	
小項目 5.0.2	
☆ 小項目 5.0.3	
小項目 5.0.4	
その他	

◎**自由記述**

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

☆ その他 (自由記述)	
-----------------	--

Ⅲ. 学内第三者評価

＜評価専門委員会の評価＞

【学外委員】

○プレゼンテーション審査を重視したAO入試制度、ジョイント・ディグリー制度などにより、入試の多様化の取り組みが進められている点が評価されます。一方で、一般入試比率が全学目標の6割を切って低下している。今後は追跡調査などを活用して、これらの施策の効果検証を進めることが求められます。

【学内委員】

○わかりやすく記述されています。

○AO入試を含む多様な入試形態の導入だけでなく、その質的向上の取り組みー入学後の追跡調査の精緻化・調査分析結果への入試への反映・AO入試におけるプレゼンテーション導入等ーが評価されます。ただ、一般入学者の割合がここ5年間で年々減少し、2011年度は50%を割っており、入学者の質の確保という点からどう評価されるのか、上記分析結果に基づいた説明が期待されます。ジョイントディグリー制度活用の学生数は、2009～2011年度の各年度1・2・3名と増加していますが、2009年度から5年以内に年間10名以上との目標ですので、その後2年間で目標達成に厳しい面もあり、この制度のメリット等の分析・広報も含めさらなる努力が期待されます。なお、入学定員数に対する入学者の割合は、「平成23年度大学評価 評価に際し留意すべき事項」（大学基準協会編『『大学評価』ハンドブック』138頁）により、過去5年平均で定員充足率が0.9未満の場合に「努力課題」とされます。2010年度0.90、2011年度0.97(指標6)ですが、5年平均としては1.00に近い率であり、基準に合致しています。

○受け入れ方針の明示、入試選抜の工夫、定員管理、検証について努力されています。ただ、小項目5.0.2については、特定の入試形態のみの記述になっていますので、大学基準協会の留意事項などを参考にされた記述が望まれます。

【大学基準協会：評価に際し留意すべき事項】

○小項目5.0.1

基盤評価：「理念・目的、教育目標を踏まえ、求める学生像や、修得しておくべき知識等の内容・水準等を明らかにした学生の受け入れ方針を、学部・研究科ごとに定めていること」「公的な刊行物、ホームページ等によって、学生の受け入れ方針を、受験生を含む社会一般に公表していること」

○小項目5.0.2

基盤評価：「学生募集、入学者選抜の方法が、受験生に対して公正な機会を保障し、かつ大学教育を受けるための能力・適性等を適切に判定するものであること」

○小項目5.0.3

基盤評価：「【学士】学部における過去5年の入学定員に対する入学者数比率の平均が1.00である（※）」

※【定員超過の場合の提言指針】

《実験・実習を伴う分野(心理学、社会福祉学に関する分野を含む)》

1.20以上：努力課題

1.25以上：改善勧告

《医学・歯学》

1.00以上：努力課題

1.05以上：改善勧告

《上記以外の分野》

1.25以上：努力課題

1.30以上：改善勧告

《未完成学部》

いわゆる「届出設置」の場合は、前身となる学科等の状況を勘案するなど、条件に応じて判断する。

※【定員未充足の場合の提言指針】

《全て》

0.9未満：努力課題

0.8未満：改善勧告

《未完成学部》

定員超過の場合の提言指針に準じる。

「【学士】学部における収容定員に対する在籍学生数比率が1.00である（※）」

※【定員超過の場合の提言指針】

入学定員に対する入学者数比率に関する提言指針（上記）に準ずる

（なお、定員の超過が留年者数の増加によるものである場合は、その事情を考慮する）

※【定員未充足の場合の提言指針】

入学定員に対する入学者数比率に関する提言指針（上記）に準ずる。

○小項目5.0.3

基盤評価：「【学士】学部における編入学定員に対する在籍学生数比率が1.00である（※）」

※【定員超過の場合の提言指針】

《未完成学部を除く全て》

1.30以上：努力課題

《未完成学部》

1.30以上：努力課題としては提言しない。ただし、概評において指摘する。

※【定員未充足の場合の提言指針】

《未完成学部を除く全て》

0.7未満：努力課題

《未完成学部》

0.7未満：努力課題としては提言しない。ただし、概評において指摘する。

「【修士・博士・専門職学位課程】部局化された大学院研究科や独立大学院などにおいて、在籍学生数比率が1.00である」

○小項目5.0.4

基盤評価：なし

達成度評価：「検証を実施する体制を整備し、責任を明確にするなどしたうえで、学生の受け入れの適切性について、恒常的かつ適切に検証を行っている」

○小項目5.0.1～5.0.3

達成度評価：「学生募集、選抜の実施状況等は、公正・適切なものである。（評価に当たっては、当該大学の説明・証明から、下記のこと明らかであるかに留意する。）

・学生の受け入れ方針と、学生募集、選抜の方法等の整合性

・学生の受け入れを適切に行うための必要な体制の整備

IV. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

((小項目5.02) 現状説明の補足) 入学定員の適切性については、入試形態別学業成績表を算出し、教授会で共通認識を得たうえで、各委員会において検討し、常にその妥当性を検証している。

★ 受験生に対する説明責任として、学生の受け入れ方針に沿い入学試験を行った結果である入試情報（定員数、志願者数、合格者数）はガイドブック等にて公開しており、またオープンキャンパスや入試説明会を通じても情報開示を行っている。